

## 第2学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

授業者 教諭

1 主題名 助け合う友達

2 ねらい おおかみに襲われるこんきちを助けるべきか相談する森の動物の心情を考える活動を通して、友達と仲よくする大切さを考え、友達と互いに仲よく助け合っていきたいという心情を育てる。

教材名 「森のともだち」(出典:「新しいどうとく 2」東京書籍)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「友達となかよくし、助け合うこと。」に関するものである。これは、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつ児童の育成をねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下ようになる。

小学校第1学年及び 第2学年B	小学校第3学年及び 第4学年B	小学校第5学年及び 第6学年B	中学校B
友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって、学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。そのため自分とは異なった考え方、行動の仕方をする友達とも、互いに認め合い、学習活動や様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。また、一人一人の違いを知り、認め合うことは、友達の新たなよい面を発見することにもつながり、さらに仲よくし、助け合っていくことができると考える。

低学年児童の段階においては、まだ幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分とは異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。

指導に当たっては、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合っよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていくようにする必要がある。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。クラスでは、学級目標の1つに「みんななかよくたすけあおう」を掲げている。給食の配膳の場面や授業の忘れ物等で困ったことがあったときにもすぐに担任が手を出すのではなく、できる限り児童同士の助け合いで解決してきた。そして、そのフィードバックを行うことで、困っている友達がいると自然と自ら進んで助けようとする児童が多くなってきた。例えば、給食当番や何かの都合で自分の仕事が出来な

い友達のかわりにお手伝いをしたり、怪我や体調のよくない友達の心配をしたりする姿が見られるようになってきている。その一方、まだ自己中心的で、仲よく遊んでいても、自分の利害に関わるトラブルが起きると、素直に話を聞かなかつたり、自分に都合のよい主張ばかりを通してしまつたりする児童や、助けられるだけになってしまつている児童もいる。

1学期の音楽科では、児童は、音楽に合わせて、歌ったり、遊んだりすることで、友達と一緒に活動することの楽しさを感じていた。また、国語科の「スイミー」では、読み取りの学習を通して、スイミーの姿から力を合わせることで、困難に直面したときの解決の鍵になると考えていた。他の教科においても、様々な学習活動を通して、協力して活動することの楽しさや、助け合うことのよさを実感してきている。1学期に学級会で話し合い、ミニ運動会を行った際には、協力して円滑に楽しく内容を実施できたグループもあれば、自分本位で進めたり、人任せにしたりして、うまくまとめられなかったグループもあった。

以上のことから、自分本位ではなく、相手の気持ちを考えながら、お互いに助け合うことのよさや大切さを実感させたい。そして、自分本位であることが時に相手を傷付けてしまう場合もあることに気付かせながら、友達と助け合ったからこそできることや、味わえる気持ちを考えることにより、友達と仲よく、助け合おうとする心情を育てていきたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本資料は、森の動物たちが助け合い、励まし合う物語である。森の動物たちに乱暴していたきつねのこんきちが、おおかみに襲われたときに森の動物たちから助けられる。最後の場面では、自分のことしか考えていなかった愚かさや仲間の大切さを実感し、こんきちは謝りながら大泣きをするという内容である。

本時では、こんきちが自己中心的な行動をしてしまうことがある。こんきちの姿を通して、楽しさや優越感を得たいがために、つい自分勝手な振る舞いをしてしまうこともあるという人間理解を図りたい。そして、森の動物たち(たぬき、りす、うさぎ、さる)がおおかみに襲われるこんきちを助けるか相談する場面では、一匹一匹だとおおかみよりも弱い、仲間を大切に、協力することで大きな敵に向かおうとする心情を考えることで、仲間の大切さや助け合う良さを考えさせていきたい。

そのために本時の話し合いでは、以下の流れに沿ってねらいとする道徳的価値について迫っていく。

#### ①こんきちが森の動物たちに乱暴なことをしている場面。

楽しさや優越感を得たいがために、つい自分勝手な振る舞いをしてしまうこんきちの気持ちを考えさせる。よくないと分かっていることでも気づかぬうちに自己中心的な行動をしまうことがあると気づかせ、人間理解を深める。

#### ②森の動物たちが、おおかみに襲われるこんきちを助けに行くか相談する場面。

役割演技を行う。役割演技を通して、1人では難しいことでも助け合うことでできるようになるという助け合いのよさや、仲間の大切さについて実感を伴って考えさせ、これからの生き方につなげていく。

#### ③森の動物たちがおおかみと戦い続ける一方、こんきちが一人で逃げてきてしまった場面。

こんきちが逃げることしか頭になかった段階から、森の動物たちのことを気にかけて始める背景を考える。

#### ④こんきちが大声で泣いて謝る場面。

謝罪するこんきちの心情を考えることを通して、友達と助け合うことの大切さについて考えさせ、これからの生き方につなげていく。

以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 研究主題との関わり

・研究主題及び仮説に迫る手立て

学校教育目標	・自分で考え 実行する子 ・みんな仲良く 優しい子 ・のびのび元気なたくましい子
研究主題	『自己の生き方を考え、主体的に実践しようとする児童の育成』 —「考え・議論する」道徳授業の創造を目指して—
目指す児童像	明るい心でよりよい人間関係を築き、相手の気持ちを考えて行動する子

##### 【仮説1】

道徳科において、児童が問題意識をもち、議論の生まれる学習展開の工夫をすることにより、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

《具体的な手立て》

##### ① 学習問題の明確化

導入では、授業全体を通して追究していくテーマを掲げ、ねらいとする道徳的価値について問題提起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

##### ② 児童相互の話合いを深める手立ての工夫。

テーマ発問を取り入れ、ペアや小グループでの話合いや意図的指名、問い返しの発問を適宜行うことでねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えながら、児童一人一人が課題に対する納得解を導きだせるようにする。

##### ③ 板書の工夫

ねらいとする道徳的価値についての考えを対比的に示し、学習の流れや児童の思考過程が見えるようにする。

##### ④ 児童の意識の変容がわかるワークシートの工夫

展開の後半部分(学習活動3)では、教材を離れ、書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めさせる。また、話合い前と話合い後に同じ発問をすることで、意識の変容を児童が感じることができるようにする。

##### ⑤ 指導観シートの活用

指導観シートを作成、活用し、教材を通して何を考えさせるのか、どういう発問をすることで児童が主体的に考えるのかを吟味し、明確な指導観のもとに授業を構想する。

##### 【仮説2】

全教育活動における道徳教育を計画的・発展的に指導することによって、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができ、主体的に実践しようとする児童が育つであろう。

《具体的な手立て》

##### ① 生きて働く別葉の作成と活用

別葉を作成し、友情、信頼について、各教科等の活動で意識して子どもたちに働きかけてきた。その上で、本時の学習では「深化」を意図して授業を行い、道徳的価値の意味や自己との関わりについて考えを深めることができるようにする。

##### ② 道徳重点目標の意識化

道徳の重点目標に関わる授業の足跡を掲示し、授業で考えたことを振り返ったり、日々の生活の中で意識化したりする。

#### 5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 学習課題について考えをもつ。 ・友達となかよくするってどういうことだろう。	・いっしょにあそぶ。 ・たくさん話をする。	・授業全体を通して追究していくテーマへの問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。

		・助け合う。	
	友だちとなかよくするってどういうことか考えよう。		
	2 教材「森のともだち」の範読を聞き、条件・状況をつかむ。		・本時は、教材を通じて「友だちと仲よくすること」について考えることを伝える。
展 開	みんな仲良く助け合って楽しく暮らしていた森の動物たちのところに、きつねのこんきちが引っ越してきた。最初はみんな大喜びだった。しかし、こんきちは乱暴者だった。ある日、遠くの山から1ぴきのおおかみがやってきてしまう。		
	(1)こんきちはどうして森の動物たちに乱暴なことをしていたと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなより強いところをみせたかったから。</li> <li>・逃げる姿がおもしろかったから。</li> <li>・乱暴するのが楽しかったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しさなどから、他の人のことを考えず自分勝手に振る舞うこんきちの気持ちに考えさせ、自分事として考えられるようにする。</li> </ul>
	(2)こんきちの叫び声を聞いたとき、森の動物たちはどんな相談をしていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんきちを助けに行かないと。</li> <li>・おおかみに食べられるかも</li> <li>・いつもこんきちは乱暴してくるからどうしよう。</li> <li>・同じ森の仲間だから助けないと。</li> <li>・こわいけどみんなで行けばなんとかなるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怖いけど、友達のために頑張ろう、助け合って、協力すれば困難も解決できるかもしれないという気持ちを自分事として考えられるように役割演技を取り入れる。</li> <li>・悩んだ結果、森の友達はこんきちを助けに行ったことを押さえる。</li> </ul> <p>☆友達と助け合うよさや大切さについて考え、自分の思いを伝えている。(ペア、発表、つぶやき、役割演技)</p>
	・おおかみを追い払った森の動物たちはどんなことを考えていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して頑張ってよかった。</li> <li>・みんなのおかげで助かった。</li> </ul>	
(3)大声で泣いているとき、こんきちはどんなことを考えていたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけ逃げてごめんなさい。</li> <li>・自分かわりにぴよん子にけがをさせてしまった。</li> <li>・みんなは助けてくれたのに、僕は自分のことしか考えていなかった。ごめんなさい。</li> <li>・みんなと助け合っていたらよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣いて自分勝手な行動を悔いているこんきちの心情を考えることを通して、助け合うことの大切さについて話し合えるようにする。</li> </ul>	

	3 「友達と仲よくすること」についてこれからの自分を見つめる。 ・今日の授業で学んだこと、これからの自分に生かせることはありますか。		・学習から友達と仲よくすることについて考えさせ、これからの自分自身の生き方につなげていけるようにする。 ☆日々の生活を充実させるために必要なことを考え、自分との関わりで考えている。(ワークシート・発表)
終末	4 教師の説話を聞く。		・友達との助け合いについての教師の具体的な事例を取り上げる。

## 6 他の教育活動との関連

事前指導	国語科「スイミー」 スイミーの読み取りの学習を通して、児童は、スイミーの姿から力を合わせる事が、困難に直面したときの解決の鍵になると考えた。
道徳科	10月「森のともだち」 よりよい友達関係について話し合い、友達と仲よくすること、助け合うことのよさや大切さについて考えることを通して、友達と互いに仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。
事後指導	生活科「うごく うごく わたしのおもちゃ」 作ったおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように、友達と比べたり工夫したところを教え合ったりしておもちゃを改良し、みんなで仲よく楽しめるようにする。

## 7 評価の視点

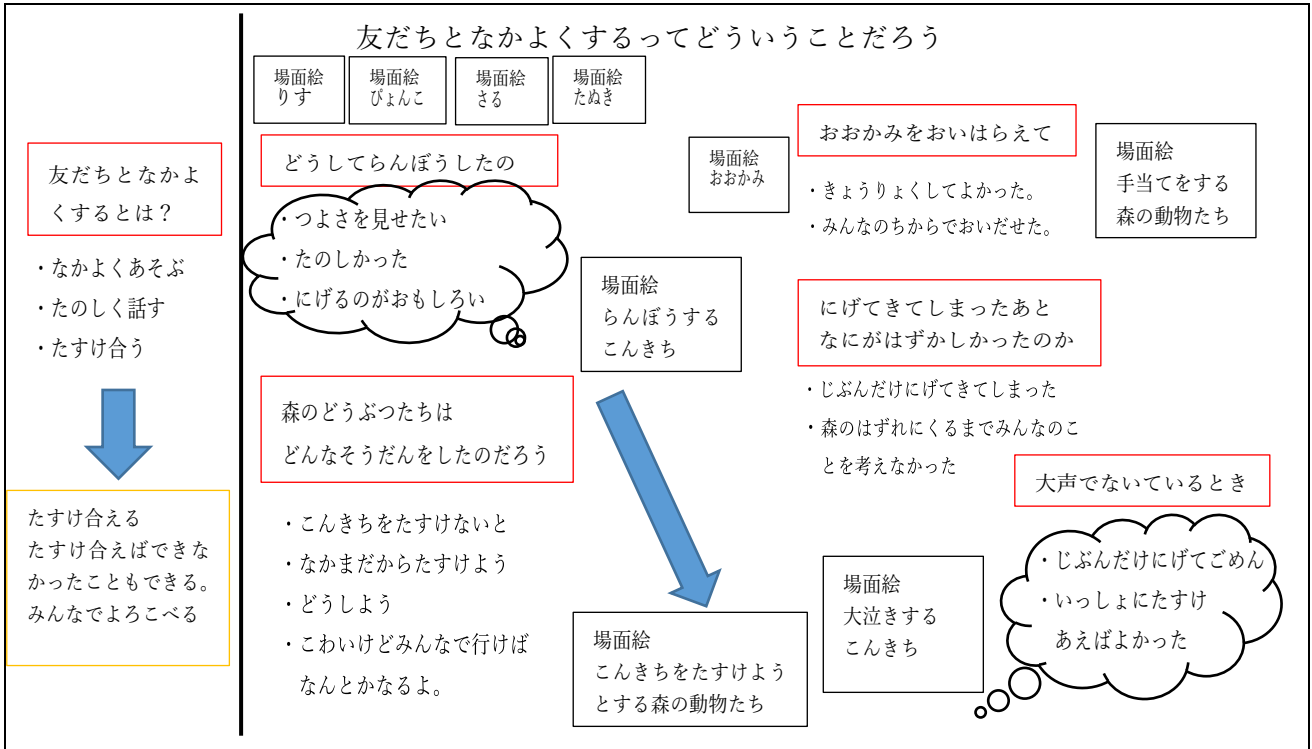
### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・森の動物たちに自分を重ね合わせ、登場人物それぞれの気持ちの変化を捉え、友達と仲よく、助け合うことのよさや大切さについて考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・友達と仲よく、助け合うことのよさや大切さについて自分との関わりで考えている。

## 8 板書計画



### 【板書写真】

